



# 議会だより



## 東京大蔵会のみなさん いつまでも故郷を想って

関連記事はP16

### もくじ

9月定例会	2~3P
決算審査特別委員会	3~4P
一般質問	5~11P
委員会報告	12~15P
村民インタビュー !!	16P

〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地

大蔵村議会 0233-75-2111

編集／議会広報常任委員会 年4回発行

発行責任者／議長 佐藤 勝

印刷／共栄印刷株式会社

おかえり、  
なりわい灯す きよらなる里  
第 145 号  
2025.秋

# 9月 定例会

# 災復旧費、増大を承認

**答** 村の出身者や関係者でもない関東圏の事業されている方から100万円の寄附があった。

**問** 固定資産税の収入未済額（滞納）が多いが、地域の実情をもつと反映した税金の算定方式は採用できないのか。

**答** 法律に基づいて算定しているので、算定方式を変えるのは難しい。

**問** ふるさと納税は、一般寄附金以外にも観光等の目的を指定した寄付も受け付けているが、村広報では、用途が「その他」の項目に観光が載っているだけ。しかも、観光事業の使い道が「看板設置等」と限定的になっているのはなぜか。寄附者の意思を大事にすべきではないか。

**答** 村広報の紙面のスペースの都合もあつたので表記をより工夫する。看板設置「等」としているので看板設置に限

検討、対応していく。  
**問** 資格取得新事業費補助金について、今決算での取得した資格の種類は。もっと活用してほしいが周知の方法はどうしているのか。

**答** 大型特殊免許を4名、ドローンオペレーター資格を1名の計5名が活用した。周知方法は、広報おおくらに掲載している。

問 インバウンド推進事業費補助金の用途は。また大々的に外国人観光客の誘客をしてはどうか。

答 外国人旅行者に対応した冬のイベントの誘客事業に活用した。今後のインバウンド誘客に関しては、観光協会、旅館組合等と検討し対応していきたい

答 つて「地域限定旅行業」も終了した。この事業を復活できないか。

問 担当課としても必要性は感じているが、資格者などの人の確保などで、事業を行えていない。今後どのような形態が可能かなどを検討する。

問 日本一の除雪体制つくり事業委託料について、事業内容と今後のランニングコストは必要か。

答 初動体制の確立と委託業者の労務軽減のために利用する積雪深センサーを除雪工区毎に一つずつ6か所に設置した。今後は保守及び維持管理費用が必要。

問 新庄インター・エンジ付近道の駅勉強会負担金について、勉強会の内容と進捗状況は。

答 最上地域8市町村長のみでの勉強会で、ありとあらゆる方向性を考えて視

# 決算審査特別委員会

補助要綱は農事代表を通じてお知らせしている。また農協からも関係者に声掛けをしている。

答 物価高騰対策として一世容は。支援事業費補助金の事業内容は。

教育委員会委員の任命に同意  
皆川 文子 氏(合海) 新任

問  
農業關係

## 令和7年度補正予算 専決処分

## 令和7年度補正予算

答 義歯等の医薬材料費が高騰しているため。

## 9月定例会 令和6年度決

## 最上広域市町村圏事務組合 規約の一部変更

高さの商品券を配布するもの。同時に升玉水力発電により村で収入した税等を原資とした商品券も配布

# 一般質問

## ここが知りたい 村政を問う

一般質問  
9月定例議会

## 一般質問とは？

村政全般に対し議員が質問し、意見を述べ村政をただしていくもので、大蔵村では1議員の持ち時間が45分です。

## 6議員が一般質問

6P 伊藤 貴之 議員

○持続可能な農業を

7P 加藤 忠己 議員

○子育て支援住宅の入居条件等について  
○村道上竹野・烏川線の一部改良について

8P 須藤 敏彦 議員

○住宅火災から村民を守るための火災報知器再点検

9P 佐藤 雅之 議員

○中山間部の集落(防災施設など)に衛星電話等の設置を  
○酷暑に備え、エアコン等購入への補助を

10P 早坂 民奈 議員

○防災用食料・備品は充分か

11P 斎藤 光雄 議員

○村政について村長に問う

この度の議会では村民の傍聴者が0人で寂しかったなあ。  
皆さんから村政に興味を持ってもらえるように  
議会はもっと頑張らなくちゃ！  
次回は皆さんのおこしをお待ちしてまーす。  
(おおくらくんより)



察等を行なが検討している。今後、経済団体だけではなく農業団体等広く一般の方々の意見が届くよう具体的にいろいろな話を進めていく。

問 白須賀地区流雪溝整備事業について、今後の工事の計画や供用開始はいつごろか。

答 令和6年度において詳細設計を完了し、令和7、8年度で工事を実施する。今年度は、大清水前より白須賀地区にポンプアップするための工事を発注。令和8年度から供用開始する計画である。

問 危険家屋対応作業委託料について、危険家屋の対応を求める住民が申請などをするれば利用できる制度なのか。

答 所有者等が不明な家屋を対象としているため所有者等が申請をして利用する制度ではない。地区代表などの相談に応じて現場調査し対応している。

られており、非常に有効的な活用ができている。  
の内容は、野球場内野整備工事について、工事

内野部分の凹凸が大きくなつたため、重機械による不陸修正を行つた。また、マウンド部分の高さ調整等も実施した。

昨年の水害にかかり、農業関係災害緊急復旧事業費補助金の効果は。

答 県と村による補助事業で迅速に対応でき、令和7年の農業作業への影響をできるだけ抑え早期の復旧につながつた。

方、医療費の方は高度医療等が進み1人当たりの医療費は増加している状況で、今後も厳しい状況が続いているものと見込まれる。現在、県全体で国保事業一本化するべく取り組んでいる。健康増進を充実させて予防的な形で医療規模を下げていく活動について大蔵村での対応は。

「保険者努力支援分」を確保するため、健診の受診率の向上、保健指導の徹底と、ジェネリック医薬品への変更の呼びかけなどに努めている。

被保険者数全体615人のうち、1割負担はなく、2割負担が175人、残りが3割負担となっている。

## 決算審査特別委員会

委員長 須藤 敏彦

9月4日、5日の2日間にわたり、令和6年度決算審査特別委員会を開催し、執行部から提出された一般会計、特別会計、事業会計の決算について審査を行つた。審査では、昨年度から始まつた新庁舎造成工事や、7月に発生した豪雨災害からの復旧・復興、さらに農業・商工・観光など幅広い分野について、各委員から様々な意見が出され、執行部との間で活発な議論が交わされた。特別会計については、今後、少子高齢化や生産年齢人口の減少に伴う税収減、国・県補助金の縮減が懸念されるほか、簡易水道事業および下水道事業会計が令和6年4月から公営企業会計に移行し、今回初めての決算認定を行つた。人口減少による料金収入の減少、施設の老朽化による修繕や更新など厳しい財政状況が続くものであった。全会計を通じ、村の将来にわたり安定した行政サービスの提供と、持続可能な行政財政運営を堅持することを確認し、決算を認定すべきものとして可決し、本会議に報告した。

一般質問

一 質問

一般質問

答 子育て支援住宅には現

問 子育て支援住宅の入居要件に、一番下の子が小学校卒業時に退居しなければならないとある。人口減少、少子化問題を抱える令和の時代にふさわしくないと見える要件であり、要件から削除すべきだと思うが村長の考えは、また、この要件により退居した世帯は何世帯か。退居後村内で生活している世帯は何世帯か。今後住宅の増築はあるのか。村長に伺いたい。

問 子育て支援住宅の入居要件に、一番下の子が小学校卒業時に退居しなければならないとある。人口減少、少子化問題を抱える令和の時代にふさわしくないと見える要件であり、要件から削除すべきだと思うが村長の考えは、また、この要件により退居した世帯は何世帯か。退居後村内で生活している世帯は何世帯か。今後住宅の増築はあるのか。村長に伺いたい。

一 質問

一般質問

問 村道上竹野・烏川線の上竹野から通り橋に抜ける途中の坂道は軽車両もすれ違う事ができない狭い村道で、カーブもあり見通しが悪く死亡事故も発生している。坂下の圃場は基盤整備中だが基盤整備終了後には農業用車両を含め車の往来も多くなり事故の発生も危

問 子育て支援住宅の入居期限の要件を削除することは考えていない

村長

問 村道上竹野・烏川線の上竹野から通り橋に抜ける途中の坂道は軽車両もすれ違う事ができない狭い村道で、カーブもあり見通しが悪く死亡事故も発生している。坂下の圃場は基盤整備中だが基盤整備終了後には農業用車両を含め車の往来も多くなり事故の発生も危

問 子育て支援住宅の入居期限の要件を削除する

村長

一 質問

一般質問

問 子育て支援住宅の入居期限の要件を削除する

村長



加藤 忠己 議員

一 質問

一般質問

問 村道上竹野・烏川線の一部改良について

一 質問

一般質問

問 村道上竹野・烏川線の一部改良について

村長



伊藤 貴之 議員

一 質問

一般質問

問 村道上竹野・烏川線の一部改良について

村長



伊藤 貴之 議員

一 質問

一般質問

問 令和の米騒動による米価上昇は、農家にとって再生可能な価格が実現した点で喜ばしい。しかし背景には生産量の低下があり、このままでは国民の食料供給が不安定になる。国も減反政策から増産へと転換し

答 米価上昇は一面では望

や反動も懸念される。国

整が残っている。段階的に緩和し、増産に向けた仕組みを整えるべきではないか。

答 米価上昇は一面では望

や反動も懸念される。国

需給見通しを踏まえ、需要に応じた生産と販売が基本である。農林水産省は供給が一定程度上回る需給見通しを示しており、作付け日安は増える方向とされる。村としては県の農業再生協議会の方針を尊重し、国の動向を注視しながら対応していいく。

問 食料は自国で確保することこそ真の安全保障であると考える。長年の減反政策のツケが今回の不足を招いた。村でも農家が増産に

答 既存の水田で稻作を増やすのが優先。それでも足りなければ、復田を考えても遅くはない。

問 水利の確保や老朽化したポンプ、水路等への支援も稻作を未来へ続けられる

答 補助制度はあるが、地元でできることは地元で担うことでも大切だ。農業は地域づくりと一体であり、住民を交えた取組が地域の維持につながる。

問 農機の故障をきっかけ

答 既存の水田で稻作を増やすのが優先。それでも足りなければ、復田を考えても遅くはない。

問 水利の確保や老朽化したポンプ、水路等への支援も稻作を未来へ続けられる

答 補助制度はあるが、地元でできることは地元で担うことでも大切だ。農業は地域づくりと一体であり、住民を交えた取組が地域の維持につながる。

問 農機の故障をきっかけ

一 質問

一般質問

問 村長 国の動向を注視しながら対応していく

答 基盤整備を進めた田んぼで稻作が再開されれば大きな効果が期待できる。農業の多面的機能も含め、基盤整備した田の転作する分も稻作ができるよう強く訴えていきたい。

問 有休農地を田に復活させる柔軟な補助金メニューが必要と思うが。

答 既存の水田で稻作を増やすのが優先。それでも足りなければ、復田を考えても遅くはない。

問 また大規模農家の育成も不可欠であり、農地集約や機械の大型化に多額の資金が必要となる。それについての補助はどう考えるか。

答 今後、法人化や共同化へは移っていく流れと思っている。国や県の制度は活用できる。現状では村独自の制度はないが、必要性を見極めながら検討する。

一 質問

一般質問

問 持続可能な農業を

答 基盤整備を進めた田んぼで稻作が再開されれば大きな効果が期待できる。農業の多面的機能も含め、基盤整備した田の転作する分も稻作ができるよう強く訴えていきたい。

問 有休農地を田に復活させる柔軟な補助金メニューが必要と思うが。

答 基盤整備を進めた田んぼで稻作が再開されれば大きな効果が期待できる。農業の多面的機能も含め、基盤整備した田の転作する分も稻作ができるよう強く訴えていきたい。

問 また大規模農家の育成も不可欠であり、農地集約や機械の大型化に多額の資金が必要となる。それについての補助はどう考えるか。

答 今後、法人化や共同化へは移っていく流れと思っている。国や県の制度は活用できる。現状では村独自の制度はないが、必要性を見極めながら検討する。





# 村民を守るために 火災報知器 について

村長  
限定的な枠組みを作り、  
補助金で対応



須藤 すとう  
敏彦 としひこ  
議員

南山山間部では、数日間携帯電話が使えなかつたり、  
のちの豪雪等では、停電で  
電源車の要請を行つたりと  
いつ過酷な事象が起きた。  
能登の震災も踏まえ、中山  
間地が孤立集落となり、通  
信手段が途絶えるリスクに  
備える必要がある。中山間  
集落の防災施設に衛星電話  
を村として設置すべきでは  
ないか。財源として過疎債  
や辺地債なども活用できな

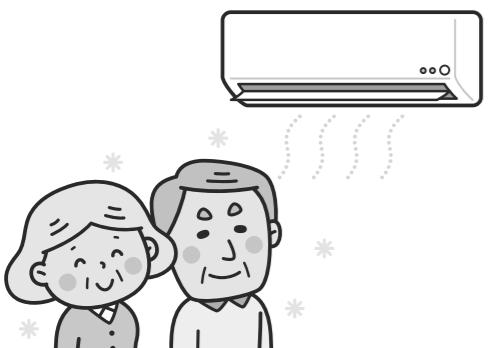


中山間防災施設に衛星電話の設置を  
村長  
非常時の情報伝達は十分  
な体制を構築している

問	温暖化で本年も全国的に
答	特に高齢者世帯では、
	村長 まずは、高齢者の非課税世帯 を対象に来年度から補助を に備え、エアコン等購入

な酷暑となつた。村も抛棄に「クーリングシェルター」を設置するなど対策をしているが、熱中症対策の多くは各家庭での対策に依拠せざるを得ない。熱中症対策として高齢者世帯や低所得世帯に省エネや環境負荷低下の機能付きなどを条件に、エアコン等の購入代金の一部を補助できないか合わせて購入後の事後的な補助ではなく使い勝手の良い補助金の方法を検討すべきではないか。

自覚のないまま、熱中症になる危険性がある。介護職員の訪問等による声かけや状況把握をおこなったり、地区の民生委員などとも連携を図つたりして健康状態の確認を実施している。購入補助を検討する場合、エアコン設置済みの高齢者世帯との公平性も考える必要がある。まずは、居宅にエアコンが一台もない方、高齢者などで非課税世帯などエアコン購入が困難な方を対象に来年度から補助を行



※クーリングシェルター  
(指定暑熱避難施設)

問 平成22年4月1日より、査したところ、全国の住宅用火災警報器の設置が義務化され、村と消防団は協力して、その意義や役割分担について住民の皆様に説明してきた。平成23年には、消防団や地区代表の皆様の尽力により、村内の多くの家庭に設置をお願いし、特に高齢者世帯などには取り付け支援を行うなど、火災報知器の普及に努めてきた経緯がある。しかしながら、最近の火災の状況を調査したところ、高齢者世帯の火災による死者の約7割が65歳以上の高齢者であることが分かった。本村においても高齢化が進んでいることから、こうした現状を踏まえた火災予防対策の強化が急務であると考えていることは、火災の発生をいち早く察知し、迅速に避難・通報することができるためには、火災報知器の設置と適切な維持管理が不可欠である。

**村民を守るために火災報知器再点検について**

**村長 限定的な枠組みを作り、補助金で対応**

問 平成22年4月1日より、住宅用火災警報器の設置が義務化され、村と消防団は協力して、その意義や役割分担について住民の皆様に説明してきた。平成23年には、消防団や地区代表の皆様の尽力により、村内の多くの家庭に設置をお願いし、特に高齢者世帯などには取り付け支援を行うなど、火災報知器の普及に努めてきた経緯がある。しかしながら、最近の火災の状況を調査したところ、全国の住宅火災による死者の約7割が65歳以上の高齢者であることが分かった。本村においても高齢化が進んでいることから、こうした現状を踏まえた火災予防対策の強化が急務であると考えている。火災への対応で最も重要なことは、火災の発生をいち早く察知し、迅速に避難・通報するところだが、そのためにには、火災報知器の設置と適切な維持管理が不可欠

であると考えている。設置義務から15年が経過し、当時設置された火災報知器の老朽化も進んでおり、加えて、村内は高齢者世帯や一人暮らし世帯の割合が増加しており、火災時の対応がより困難になる恐れがあると考える。村として積極的な対応を望むが、村長の考え方を問う。

ることなどを想定しており、地域全体での火災予防対策の強化に努めている。火災初期の早期発見や通報、避難を確実にする取組が不可欠であり、住宅内の火災予防設備の普及は大切な役割があるものと考えている。住宅用火災報知器について耐用年数が経過したものが多く、電池切れによるアラームにつきこの質問などが

難な高齢者世帯が出てくることも推測され、高齢者非課税世帯など限定的な枠組みを作り、補助金の対応を考えていきたいと思う。また、消防団などから様々なる意見を伺いながら進めていきたいと思つ。

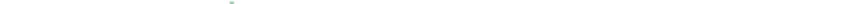
な酷暑となつた。村も抛棄に「クーリングシェルター」を設置するなど対策をしているが、熱中症対策の多くは各家庭での対策に依拠せざるを得ない。熱中症対策として高齢者世帯や低所得世帯に省エネや環境負荷低下的機能付きなどを条件に、エアコン等の購入代金の一部を補助できないか合わせて購入後の事後的な補助ではなく使い勝手の良い補助金の方法を検討すべきではないか。

自覚のないまま、熱中症になる危険性がある。介護職員の訪問等による声かけや状況把握をおこなったり、地区の民生委員などとも連携を図つたりして健康状態の確認を実施している。購入補助を検討する場合、エアコン設置済みの高齢者世帯との公平性も考える必要がある。まずは、居宅にエアコンが一台もない方、高齢者などで非課税世帯などエアコン購入が困難な方を対象に来年度から補助を行

設置義務から15年が経過し、当時設置された火災報知器の老朽化も進んでおり、加えて、村内は高齢者世帯や一人暮らし世帯の割合が増加しており、火災時の対応がより困難になる恐れがあると考える。村として積極的な対応を望むが、村長の考え方を問う。

地域全体での火災予防対策の強化に努めている。火災の初期の早期発見や通報、避難を確実にする取組が不可欠であり、住宅内の火災予防設備の普及は大切な役割があるものと考えている。住宅用火災報知器について耐用年数が経過したものが多く、電池切れによるアラームについての質問などが消防団や役場事務局に届いている。住宅用火災報知器は、すでにその設置を義務付けられているので、そのことを前提に、住宅用火災報知器への補助については設置状況を調査しながら進めてまいりたいと思う。(調査については、役場事務局をはじめ、消防団の協力を得ながら進めることが有意義なことだと考えており、未設置世帯については、急に設置するように呼び掛けたい。火災報知器の設置や更新が経済的に困るなどなどを想定しており、スマートフォンで実現できるとの情報もある。消防積載車に無線機を搭載しており、情報伝達は十分な





問 新庁舎建設地北側後方の内水について

答 村長 排水ポンプ車の整備を検討

問 新庁舎建設地北側後方の内水について

答 住民の不安払拭の行動を行ってほしい。

答 調整池の大きさや整備実施されない策より、現実的な調整池の建設が内水を心配される住民のために急務と感じたが。

問 新庁舎建設地北側後方の内水について

答 住民の不安払拭の行動を行ってほしい。

答 秋に村長と語る会が予定されており、地区でその場を設けていただければ語る会で話をしたい。

問 新庁舎建設地北側後方の内水について

答 住民の不安払拭の行動を行ってほしい。

答 秋に村長と語る会が予定されており、地区でその場を設けていただければ語る会で話をしたい。

問 合海地区墓地の沈下について

答 村長 その都度対応する

問 今後庁舎が完成し、冬期間に於いてタイヤショベル等の重機械が稼働し墓地の地盤に影響ができると思われる。経過をどのように見守つて行くのか。

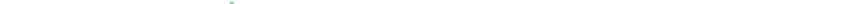
答 区画の縁石に隙間等が見られたが、墓地利用に支障をきたすような地盤沈下等は確認できず、引き続き現地の状況を見守る。

職員が現地を確認し、新



今年度も1台を更新し、今後10年以内に全車両を更新する計画だが、既存車両への設置については引き続き検討していく。

毎年、除雪出動式などの機会を通じて作業前の安全確認、作業時の安全対策の周知徹底を図り、村として除雪作業の安全確保に万全を期す。



問 新庁舎建設地北側後方の内水について

答 村長 排水ポンプ車の整備を検討

問 新庁舎建設地北側後方の内水について

答 住民の不安払拭の行動を行ってほしい。

答 調整池の大きさや整備実施されない策より、現実的な調整池の建設が内水を心配される住民のために急務と感じたが。

問 新庁舎建設地北側後方の内水について

答 住民の不安払拭の行動を行ってほしい。

答 秋に村長と語る会が予定されており、地区でその場を設けていただければ語る会で話をしたい。

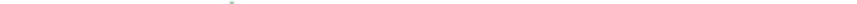
問 合海地区墓地の沈下について

答 村長 その都度対応する

問 今後庁舎が完成し、冬期間に於いてタイヤショベル等の重機械が稼働し墓地の地盤に影響ができると思われる。経過をどのように見守つて行くのか。

答 区画の縁石に隙間等が見られたが、墓地利用に支障をきたすような地盤沈下等は確認できず、引き続き現地の状況を見守る。

職員が現地を確認し、新



問 新庁舎建設地北側後方の内水について

答 村長 排水ポンプ車の整備を検討

問 新庁舎建設地北側後方の内水について

答 住民の不安払拭の行動を行ってほしい。

答 調整池の大きさや整備実施されない策より、現実的な調整池の建設が内水を心配される住民のために急務と感じたが。

問 新庁舎建設地北側後方の内水について

答 住民の不安払拭の行動を行ってほしい。

答 秋に村長と語る会が予定されており、地区でその場を設けていただければ語る会で話をしたい。

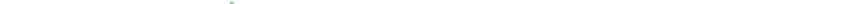
問 合海地区墓地の沈下について

答 村長 その都度対応する

問 今後庁舎が完成し、冬期間に於いてタイヤショベル等の重機械が稼働し墓地の地盤に影響ができると思われる。経過をどのように見守つて行くのか。

答 区画の縁石に隙間等が見られたが、墓地利用に支障をきたすような地盤沈下等は確認できず、引き続き現地の状況を見守る。

職員が現地を確認し、新



問 新庁舎建設地北側後方の内水について

答 村長 排水ポンプ車の整備を検討

問 新庁舎建設地北側後方の内水について

答 住民の不安払拭の行動を行ってほしい。

答 調整池の大きさや整備実施されない策より、現実的な調整池の建設が内水を心配される住民のために急務と感じたが。

問 新庁舎建設地北側後方の内水について

答 住民の不安払拭の行動を行ってほしい。

答 秋に村長と語る会が予定されており、地区でその場を設けていただければ語る会で話をしたい。

問 合海地区墓地の沈下について

答 村長 その都度対応する

問 今後庁舎が完成し、冬期間に於いてタイヤショベル等の重機械が稼働し墓地の地盤に影響ができると思われる。経過をどのように見守つて行くのか。

答 区画の縁石に隙間等が見られたが、墓地利用に支障をきたすような地盤沈下等は確認できず、引き続き現地の状況を見守る。

職員が現地を確認し、新



早坂 民奈 議員

## 防災用食料・備品は充分か

問 世界的に異常気象の被害がでており、国内でも毎年のように豪雨や山火事の災害が起きている。

答 防災の取り組みを伺いたい。

問 一時避難の防災用食料の内、飲料水は約1300㍑、食料は1700食分を確保している。二次避難用は物流が停止しなければ食料、備品の調達は可能である。暑さ寒さ対応は通常の電力が確保出来る状態であれば、避難所の冷暖房機能をフル活用する。例えば具体的には大蔵小学校、中学校では体育館から冷暖房完備の教室へ、沼の台は保育室、肘折は防災室、救護室等を使用して対応する。電

問 食料面で柔らかいものしか食べられない方や、アレルギーを持っている方や、また離乳食等の準備はどうか。

答 検討の必要性はあるが、全ての要望には答えられず、各自一時避難用に準備してほしい。

問 食糧の備蓄は間に合いそつだが焼き出し訓練を地区単位で行えないか。公民館等には鍋や調理器具が常備されているが、住民が集まる機会も少なくなっている。おにぎりや汁物など簡単な物で良いので、防災計

画の中に地区での炊き出しの項目をいれて後押しして頂きたい。

答 自主防災計画の中に入れることは可能である。

災害は忘れたころにやつてくる。備えあれば憂いなし、村民の安心・安全のためにこれからも考えて実行していただきたい。



問 自然災害は予測がつかず、被害を最小限に抑えるかが課題である。先日、村防災位観測所を視察した。建物の使用状況などは把握しているが、備品について、気づいたことが多々あった。非常食の数、備品は間に合っているのか、暑さ、寒さ対策はどうなのが。いざというとき慌てないためにも今後の

問 世界的に異常気象の被害がでおり、国内でも毎年のように豪雨や山火事の災害が起きている。

答 世界的防災用食料は十分に確保が出来ない場合は、反射式ストーブや少ない電力で利用できる石油ファンヒーターを発電機で使用を想定している。非常時の備えは基本的に自分自身を守ることで、常に災害時の対応に関心を持ち、日頃から、水や食料など最低限備蓄することが身を助ける最も有効な手段である。

力確保が出来ない場合は、反射式ストーブや少ない電力で利用できる石油ファンヒーターを発電機で使用を想定している。非常時の備えは基本的に自分自身を守ることで、常に災害時の対応に関心を持ち、日頃から、水や食料など最低限備蓄することが身を助ける最も有効な手段である。

災害は忘れたころにやつてくる。備えあれば憂いなし、村民の安心・安全のためにこれからも考えて実行していただきたい。



問 世界的に異常気象の被害がでおり、国内でも毎年のように豪雨や山火事の災害が起きている。

答 世界的防災用食料は十分に確保が出来ない場合は、反射式ストーブや少ない電力で利用できる石油ファンヒーターを発電機で使用を想定している。非常時の備えは基本的に自分自身を守ることで、常に災害時の対応に関心を持ち、日頃から、水や食料など最低限備蓄することが身を助ける最も有効な手段である。

力確保が出来ない場合は、反射式ストーブや少ない電力で利用できる石油ファンヒーターを発電機で使用を想定している。非常時の備えは基本的に自分自身を守ることで、常に災害時の対応に関心を持ち、日頃から、水や食料など最低限備蓄することが身を助ける最も有効な手段である。

災害は忘れたころにやつてくる。備えあれば憂いなし、村民の安心・安全のためにこれからも考えて実行していただきたい。

力確保が出来ない場合は、反射式ストーブや少ない電力で利用できる石油ファンヒーターを発電機で使用を想定している。非常時の備えは基本的に自分自身を守ることで、常に災害時の対応に関心を持ち、日頃から、水や食料など最低限備蓄することが身を助ける最も有効な手段である。

災害は忘れたころにやつてくる。備えあれば憂いなし、村民の安心・安全のためにこれからも考えて実行していただきたい。

## 総務文教常任委員会

委員長 須藤 敏彦

### 〈所管事務調査〉 地域おこし協力隊について

令和7年8月19日、本村における地域おこし協力隊の取組について、現状、課題、今後の方針などをについて、田部井総務課長から聴取した。

地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR、農林水産業への従事、住民支援などある。隊員は各自治体の委嘱を受け、任期はおおむね1年から3年とされている。

本村では、現在さらに1名の募集を行っている。新たな視点や発想によって地域力を高め、大きな課題となっている地域「ミユ二ティ」の維持・活性化に寄与することを期待したい。

また、本年4月に大蔵村地域おこし協力隊として着任した佐竹未知隊員の活動について、若槻産業

佐竹隊員には、肘折温泉はもとより大蔵村全体の活性化に大いに貢献することを期待し、当委員会としても隊員の活動を注視し、応援していきたい。



〈村道赤松滝ノ沢線・平林地内〉



〈林道塩藤田沢線・大釘峰地内〉

## 議会広報常任委員会

委員長 伊藤 貴之

議会広報常任委員会  
委員長 佐藤 雅之

〈所管事務調査〉  
令和6年豪雨災害について

令和6年7月末に最上・庄内地域を襲った豪雨災害による農地・施設等の復旧に旧事業の補助金執行状況を聴取。農地や用水路、農道、農業用施設等の復旧に充てられ、令和6年度は121件・総事業費約70億円、令和7年度は40件・3億円（調査時点）となつている。次に、新庄市新田川流域の復旧現場を視察。同市が国の補助を受け進めるもの、入札不調や設計上の

現場も被害が大規模かつ頻発化しており、復旧を担う人員の不足、労働環境の制約から早期対応が困難である現状の一面も浮き彫りとなつた。今後も災害激甚化と人手不足が予想されることから、県・国の迅速な支援、インフラ強化、地元建設業の維持を図る必要性を強く認識した。

当委員会では、8月28日に東京で開かれた町村議会広報研修会に参加しました。研修では、取材の工夫やわかりやすい映像の見せ方など、専門の先生方から幅広い話を聞くことができました。大蔵村の当議会では2年前から村民インターネットを載せておりますが、今回学んだことを取り入れることで、もっと身近に感じてもらえる内容にできそうだ感じました。実際に、今回は東京大蔵会会長の坂茂昌さんに、研修で得たヒントを意識しながらお話を伺いました。また事例発表では、福岡県大刀洗町の平山議員から、住民に伝わりやすい紙面づくりの工夫や、広報委員が中心となつて議会全体を盛り上げている取り組みを紹介していただきました。「広報を通じて住民の政治参加を促す」という姿勢に共感し、大きな刺激を受けました。今回の研修を通じて、私たち広報委員もできることから少しづつ取り組んでいきたいと思います。

## 委員会報告



委員会報告

### 〈所管事務調査〉 地域おこし協力隊について

令和7年8月19日、本村における地域おこし協力隊の取組について、現状、課題、今後の方針などをについて、田部井総務課長から聴取した。

地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR、農林水産業への従事、住民支援などある。隊員は各自治体の委嘱を受け、任期はおおむね1年から3年とされている。

本村では、現在さらに1名の募集を行っている。新たな視点や発想によって地域力を高め、大きな課題となっている地域「ミユ二ティ」の維持・活性化に寄与することを期待したい。

また、本年4月に大蔵村地域おこし協力隊として着任した佐竹未

野を中心取り組む予定のこと。1年目は肘折温泉を中心に村全體を理解するため、商工観光係とともに観光行政全般の業務に従事し、2年目は観光振興に関する仕事に携わりつつ将来の目標を模索し、3年目にその目標に向けて活動を展開できるよう、産業振興課が支援する方針であるとの説明を受けた。

佐竹隊員には、肘折温泉はもとより大蔵村全体の活性化に大いに貢献することを期待し、当委員会としても隊員の活動を注視し、応援していきたい。

### 大蔵村地域おこし協力隊 佐竹未知隊員より

協力隊着任から5か月、湯治に訪れていた時には見ていなかった大蔵村の素晴らしい所を知ることができました。祭事を続けていくことの大切さ、独自の食文化の貴重さです。絶やしてはいけない、そう思うと同時に、この魅力は誘客に繋がるのではと感じています。温泉だけではなくお客様はいらっしゃいません。他所にも温泉はたくさんありますから。温泉×田舎料理、温泉×サブカルなど、温泉と何かを掛け合わせたものが魅力になるはずです。いま私にできる活動のひとつとして、SNS（エックスとインスタグラム）で情報発信をしています。肘折の常連さんから、「今までと違う視点の投稿だね」と声を掛けていただきました。また、コーヒーを飲んでひと休みしたり夜お酒を楽しむ場所が少なく、街歩きをするには少々寂しい。はじめて肘折に来た時からずっとそう感じていました。旅館にお泊りのお客様や「ゆらりひじおり巡り」のアンケートにも同様のお声があります。昔のままの温泉街をぐるっと散策して、湯治場の雰囲気を楽しんでいただきたい。「楽しかったね。また来たいね。」そう言っていただけたら。どのような形が適切か、役場はもちろん地元の方にも相談し活動に繋げていきたいです。

# 最上広域市町村圏事務組合議会(通称・最上広域議会)

最上広域議会議員 早坂 民奈

## 最上広域とは

- 最上地域1市4町3村で構成し、教育センター、消防、ごみ・リサイクル・し尿処理、「ゆめりあ」の管理運営に関する一部事務組合
- 理事会：各市町村長(8名)
  - 議会：各議長(8名)
  - 議員：議員(10名)

運営資金は各市町村の人口に応じての分担金で、大蔵村は令和6年約1億4,121万円でした。

最近、消防職員のパワハラ問題で二コースになりましたが、この案件について諮詢するのが当議会です。今、議案になっているのが、理事長を補佐する役職の設置です。各市町村にて可決されて初めてその役職を置くことができ、1つの町村で否決されると置くことが出来ません。各市町村の9月議会にて審議され、10月の定例会にて決まります。

また、7月には現場視察研修として、令和8年3月完成の新消防

署の工事進捗状況とリサイクルプラザもがみを視察しました。リサイクルプラザもがみでは、ビンやカゴの選別作業や埋立地を見学し、埋立地が広大な土地でも残す所が少なくなっているのが気になりました。また無料で家具類、机、自転車を譲渡してくれます。広域の施設は他にエコプラザもがみ、もがみクリーンセンター、教育研究センター、ゆめりあ、へい獣保冷庫などがあります。ソフト面では育英資金制度、看護師育成修学資金、沖縄交流事業などを運営しています。



## 中央要望

議長 佐藤 勝

### 〈要望事項〉

1. 【道路整備の財源確保】
2. 【地すべり対策施設の維持管理予算の拡大】
3. 【農村整備事業の予算の確保】
4. 【継続可能な中山間地域農業への支援】
5. 【農産物の適正価格形成の実現】

### 〈説明者〉

- 佐藤雅之 議員  
須藤敏彦 議員  
加藤忠己 議員  
佐藤 勝 議員  
伊藤貴之 議員

## 令和7年度上半期議会活動

日付	内 容	場 所
4月22日	大蔵村選挙管理委員会当選証書交付式	役場会議室
4月24日	議員全員協議会	役場会議室
5月1日	第一回大蔵村議会臨時会	役場会議室
5月29日	新庁舎建設特別委員会	役場会議室
6月5日・6日	第2回大蔵村議会(6月議会)	議場
6月10日	議会改革特別委員会	議場
6月18日	第2回大蔵村議会臨時会	議場
7月2日・11日	議会運営委員会・議員全員協議会	役場会議室
7月30日	産業建設常任委員会所管事務調査	役場会議室
8月17日	議会運営委員会	役場会議室
8月19日	新庁舎建設予定地	役場会議室
8月26日	総務文教常任委員会所管事務調査	役場会議室
9月2日～5日	第3回大蔵村議会(9月議会)	役場会議室
9月9日～10日	地元選出議員中央要望	議場

## 議会を傍聴してみませんか

議場ではどんな発言があるのか、どんな村づくりを考えているのかなどを直接聞くことができます。

尚、各要望事項と説明議員は次のとおりです。



エコプラザもがみ(可燃物処理施設)



建設中の新消防庁舎



リサイクルプラザもがみ(不燃物処理施設)



広域交流センターゆめりあ

# 村民インタビュー!!

東京大蔵会会長 はやさかしげまさ 早坂茂昌さん



## 東京大蔵会とは

東京大蔵会は、集団就職で上京した人たちのよりどころとして生まれ、今年で48回目の総会を迎えるました。コロナで3回の中止はありました。50年の歴史を刻んできました。現在の登録会員は170~180人ほど。毎年の総会には100人ほどが集まり、採れたての大蔵村産の山菜が大人気だそうです。周辺の市町村の東京会と比べても会員数は多く、これは現会長・早坂茂昌さんの手腕によるところが大きいと感じます。夫婦や親子での参加も歓迎し、未来につなげようという姿勢が光っています。

## 50回目の総会間近

早坂さんは現在6代目会長で、就任して3年。あと7、8年は続けたいと話されます。会員は少しずつ世代交代を進めながら、最低でも100人体制を維持することを目指しています。再来年には総会50回という節目を迎えるため、会員にアンケートをおこない、盛大に開催したいとのことです。

## 村への思い

村の人口減少を心配し、どうにか力添えできないかを常に考えている早坂さん。会員のお米の事まで心配されていて、今年の米不足には、早坂さんが中心となって会員へ案内を出し、ボランティアで米の注文を取りまとめました。また理事会のあの飲み会では方言で同級生と語り合い、東京にいながらも故郷を感じられるのが喜びだといいます。

一昨年の総会の最後、参加者全員で「故郷（ふるさと）」を合唱したときには、涙を流しながら歌う早坂さんの姿が印象的でした。郷土に対する思いがあふれたのだと思います。60歳を過ぎると実家に行きづらくなる人も増えますが、先祖のお墓やお寺に参り、村の人と話す時間はかけがえのないもの。お盆に帰省するという文化を、泊まる場所は肘折にするなど無理のない範囲で、もう一度見直してもいいのでは——そんな早坂さんの言葉には、ふるさとを思う温かい気持ちがにじんでいました。

皆様のご親戚やお知り合いの方が関東でお暮しになっているならば、どうぞ東京大蔵会へのご入会をお勧めください。きっと力になってくれるはずだとインタビューで感じました。



## 議会広報 常任委員会

委員 委員 副委員長 委員  
員 員 長

早佐須伊  
坂藤藤藤  
民敏貴  
奈勝彦之

和の米騒動」を報じているが、政府は、米の品薄や価格高騰の原因を早急に分析し、農家が生産可能な米価、消費者が購入しやすい価格になることを期待したい。  
(須藤敏彦)



棚田(昔は「ガンギ田」と言っていた)の秋、今年はいつもの年より早く、一面金色に輝き、9月1日にはモチ米の刈り取りをした。毎年5月20日頃を日程に田植えを予定し種をまくのだが、米つくりをして今まで一番早い刈り取りとなつた。私が中学生の頃は、どの家も家族農業で、8割近い生徒が春の田植えや秋の収穫時期になれば、休み(ひま)をもらい、学校は授業もできない状態になつたものだ。手で刈り取った稻は、「ぼし場」という場所に「ばせ」を結い、すべて人の力で運び、9月中旬になれば日が沈むのが早く、発電機を利用して火を取つたり、車のライトで「ばせ」に稻を掛けた思い出がある。

あとがき